

高梁市立玉川小学校

・児童数 31名 ・学級数 4学級 ・教職員数10名（平成26年4月1日現在）

○取組実践のキーワード

学習意欲の向上

○標題（研究主題）

「自分の考えをもち、言葉豊かに表現する児童の育成」
（協同学習の良さを取り入れた国語科での指導を通して）

○取組を始めた経緯

昨年度から学力向上を目指し中学校区で「協同学習」を取り入れた授業実践の研究を進めている。同学区の本校でも、この「協同学習」を効果的に取り入れることで、考えや意見を交流し意欲的に学習に取り組む児童を育てたいと考えた。

○取組の実施体制

- ・完全複式で特別支援学級を含む4学級であるため、職員全員での研究および授業実践を中心にする。
- ・週1回の全員研修を位置付ける。

○学力向上に向けた具体的な取組

- ・1学期に研究主題及び授業を支える学習基盤について、次の点を共通理解する予定である。
 - ・協同学習実践校の視察
 - ・5・6年の公開研究授業による課題提案
 - ・全国学力調査の結果分析
 - ・講師を招き、教材研究・指導案検討を行い、2・3学期は検討した指導案を基に授業実践の予定
 - ・昨年度からの継続した取組として「協同学習」の進め方について確認
 - ・自分の考えをもつ→グループで聞き合う→全体で共有する
- ・児童への説明として、次のことを行った。
 - 1 これから「協同学習」をしていきます。
 - 2 まず、自分で考えます。そして、グループで話し合いをします。
 - 3 分からないことは「分からない」と言えばいいのです。どんどん聞いてください。
「分からないこと」はまったく恥ずかしいことではありません。
みんなが分かるような話し合いにしましょう。
 - 4 友達の考えを聞くときは、しっかり終わりまで聞いてあげましょう。
決してきつい言葉や否定するような言葉は言ってはいけません。
がんばって考えを発表できたことがすばらしいのです。それでよいのです。
 - 5 自分の役割を、責任を持って果たしましょう。
 - 6 班の中で出たことを、他の班の友達にも教えてあげましょう。

- ・話し合いを進めるための支援として「話の聞き方名人あいうえお」「話し方名人かきくけこ」

聞き方名人 あ あいてを見て
 い いっしょうけんめい
 う うなずきながら
 え えがおで
 お おわりまで

| | | | | | | |
|-------|-------|---|-------------|-----|---|-------------|
| 話し方名人 | 低・中学年 | か | かおをみながら | 高学年 | か | 簡潔に（わかりやすく） |
| | | き | きもちをこめて | | き | 聴く人の反応を見ながら |
| | | く | 口を大きくあけて | | く | くわしく、具体的に |
| | | け | 元気よく | | け | 決して急がず |
| | | こ | 声の大きさに気をつけて | | こ | 言葉づかいに気をつけて |

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

中学校区で作成された授業の約束を本校に合う形にして提示して指導することで、学習の準備・授業の始まり終わり・あいさつ等、授業を支える学習基盤が整いつつある。

「協同学習」による話し合いを取り入れることで、自分の考えに自信を持ちにくい児童が、友達の考えを聞いたり、聞いてもらったりすることで安心し、全体の場でも発表できるようになりつつある。

2 課題

少人数・複式学級のため、話し合いの際のグルーピングにかなり制約がある。

国語科で発達段階の異なる2つの学年の児童が同じ課題で学習を進め話し合うことから、その際のめあての持たせ方は学級の実態等を踏まえて考えなくてはならない。

また、課題に沿って話し合う力や、根拠や理由を明確にして説明する力は十分とは言えず、そのために必要な言葉の力も十分とは言えない。

○取組の継続・発展の要因

学習基盤が整いつつあり、学習への意欲や課題に取り組もうとする気持ちが高まっているので、話し合いや発表の機会等を増やし、自信を持たせつつ、話す力を高めていく。

音読や読書により、言葉の力や読解力を高めることで、話し合いの内容の高まりが期待できるようにしていく。

○管理職・中核教員等のアクション

研究主任を中心に、児童の実態を分析し、個々の児童の課題を全職員で話し合う体制を構築し、管理職の助言を得ながら、全職員が前向きに取り組むことができるようにする。